

*The Journal of
Nagasaki University of Foreign Studies
No. 27 2023*

日本語学習者はなぜ受身表現を間違えるのか
－ 文法性判断テストからみた日本語学習者の判断基準－

黒田 弘美

Why Do Japanese Learners Make Mistakes in the Passive Voice:
Criteria for Japanese Students Based on a Grammar Test

KURODA, Hiromi

長崎外大論叢

第27号
(別冊)

長崎外国語大学
2023年12月

日本語学習者はなぜ受身表現を間違えるのか － 文法性判断テストからみた日本語学習者の判断基準－

黒田 弘美

Why Do Japanese Learners Make Mistakes in the Passive Voice: Criteria for Japanese Students Based on a Grammar Test

KURODA, Hiromi

Abstract

In this study, a grammar test was administered to intermediate to advanced level learners of Japanese to measure their comprehension of the passive voice. The results showed that when the first half of a compound sentence was a direct passive with a transitive verb, the passive was easy to understand and the connection with the content of the second half was also easy to comprehend. On the other hand, when the first half of the sentence was an indirect passive, the passive was difficult to understand. The reason for this was that the learners did not understand the connection between the first half of the passive and the second half of the sentence. Therefore, learners mistakenly chose *-teiru* or *-teshimau*. These results suggest that the learners selected the questions based on the semantic connection between the postpositions in the compound sentences and the passive verbs. However, it can be inferred that they did not use the passive particle *ni* as a criterion for selecting the passive voice.

キーワード

迷惑の受身表現 受身表現の疑問 学習者の発話 学習者独自の規則

1. はじめに

日本語学習者は中級後半や上級レベルになっても、日本語の迷惑の受身表現（以下受身表現）の誤用や回避¹が多く、被害性の有無、視点の統一の問題が指摘されている（田中・館岡 1992、小林 2001、大関 2022、菊池・増田 2022）。日本語学習者（以下学習者）の受身表現に対する疑問について、市川（2014）は、学習者は受身文と能動文の「迷惑の度合い」が不明瞭であり、能動文の方がわかりやすいとしている。黒田（2023）²では、学習者が受身を表現する際の誤用や回避は、学習者の受身に対する不明瞭な部分や理解のしやすさが反映していることが考えられた。次の表1は黒田（2023）の調査に対する分析の結果である。

表1 話し言葉における日本語学習者の受身表現の特徴 (黒田2023)

①	被害・迷惑の意味がはっきりしている動詞の場合は、語彙のように使用する。 例「叱られた」「怒られた」「注意された」
②	「笑われる」のように、動詞に被害・迷惑の意味が含まれていない場合は、「みんなが笑った」のか、「みんなに笑われた」のか混乱し、視点の位置が定まらない。
③	動作の主体の助詞「に」と受身形の動詞を一続きにして考えていない。
④	受身表現を「してしまう」で置き換える学習者独自のルールがある。
⑤	聞いて分かるが話せない者が多い。

このように学習者は受身表現を文ではなく語彙のように使用することや動詞によっては視点の位置が定まらないこと、受身表現を「してしまう」で表現することなどから、受身表現の規則について曖昧であることが考えられる。では、表1の結果は文法性判断テストを行った場合も同様の結果が出るのだろうか。学習者が「聞いて理解できるが話せない」なら、文法性判断テストでは、正しい答えが選択できる可能性がある。また、文法性判断テストでは、選択した解答から会話の調査では見えない、学習者の受身に対する認識が見えてくるのではないかと思われる。そこで、本稿は日本語中級から上級レベル³の日本語学習者を対象に文法性判断テストを実施し、受身表現が理解されやすい文とそうではない文を学習者の解答を基に分析し、その原因を検討する。

2. 学習者の受身表現に対する疑問とその原因

ここでは学習者の感じている受身表現の疑問とその原因について書かれている先行研究について概観する。

市川 (2014) は学習者の受身表現に対する疑問について取り上げており、初級の授業では受身形の作り方や受身文の枠組みの練習に終始してしまうことが多いためか、学習者は受身表現の使用場面や能動表現との使い分けが難しいことを指摘している。市川 (2014) では学習者は (1a) と (1b) の迷惑の度合いが不明瞭であることや (2a) よりも (2b) の方がわかりやすいことが報告されている。さらに、学習者が (3a) 「足を踏まれた」と (3b) 「足が踏まれた」の理解が曖昧なことについては、間接受身と直接受身の区別の難しさが原因であることを報告している。

(1) a 訪問販売員に來られて、困った。

b 訪問販売員が來て、困った。

学習者の疑問：迷惑の度合いはどちらが強いのか。(英語母語話者)

(2) a 私は子供に泣かれて、困った。

b 私は子供が泣いて、困った。

学習者の疑問：「泣いて、困った」の方がわかりやすい。(英語母語話者)

(3) a 私は足を踏まれた。

b 私は足が踏まれた。

学習者の疑問：「足が踏まれた」という言い方でも通じるのか。それとも「足を踏まれた」の方が適切であるのか。(中国語母語話者)

(市川 2014: 98 一部抜粋 国籍名を対象者使用言語に変更)

このような学習者の疑問に対して、田中・館岡（1992）は受身表現の構文面と意味の面から指摘しており、「どのような動詞の受身が被害や迷惑の意味を持つのか、「間接受身」はいつも「被害」や「迷惑」の意味を持つと考えて良いのか、また、そうだとした場合、「被害」や「迷惑」の意味を持つのは「間接受身」の場合だけなのか」という、受身の根本的な諸問題を提示している。田中・館岡（1992）は「迷惑・被害の受身」は間接受身と一部の直接受身から作られることを報告しており、能動文において迷惑・被害の意味を持たないが、受身文にすると迷惑・被害の意味が付随される直接受身を「迷惑・被害の受身」の一部としている⁴。

(4) 「迷惑・被害の受身」

①間接受身

a 自動詞の受身： 私は雨に降られた

b 他動詞の持ち主の受身： 私は姉に日記を見られた 私は次郎に顔を殴られた

②直接受身の一部

a 有対他動詞の受身：（ヲ、ニ～を格の受身の一部）

私は夫に家を出されて、行くところがなくなった

b 無対他動詞の受身：（ヲ、ニ、ニ～を格の受身の一部）

みんなに嫌われる 妻に買い物を頼まれる

（田中・館岡 1992：236 例文筆者作例）

田中・館岡（1992）が指摘している「被害・迷惑の意味を持つ動詞の種類」について、柴谷（1997）は「降られる」のように動詞に被害の意味はないが、受身文になると迷惑ないし不本意であるという情動的な意味が表わされるもの、そして、「殴る」のように被害の意味が動詞の語彙的な意味からくるものがあり、この2つは迷惑の意味の質が異なることを言及している。さらに、大関（2022）は第二言語習得の観点から学習者の受身表現の習得について言及しており、受身表現は教室指導のあとのインプットやインターアクションの中で習得が促進されるのであり、教室での指導があればすぐに使えるようになる訳ではないことを報告している。また、自然習得者のほうが教室学習者よりも受身表現の使用数が多いことも言及しており、個々の学習者がアイテム・ベースで自分の使える受身表現を使いながら、使える受身表現が増えていくことで受身の言語体系が作られていく可能性があることを示唆している。このように、学習者の受身表現の疑問は指導法の問題や受身表現特有の構文および意味の問題に関係していることが考えられる。そこで、次の3章では、この先行研究に基づき調査・分析を行った黒田（2023）の内容を報告し、本稿の調査・分析に至った経緯を述べる。

3. 黒田（2023）の調査・分析の結果について

黒田（2023）においては、話し言葉における学習者の受身の使用実態を明らかにすることを目的とし、日本語学習者が感じている受身表現の「迷惑の度合い」や「わかりやすさ」は受身を表現したときに、どのように反映されているのか調査・分析をした。調査は20××年8月から約1ヶ月間、A大学の日本語学習者、計8名を対象（表2）とした。学習者のレベルは文化庁（2021）の「日本語教育の参照枠」の全体的な尺度（注3参照）に基づいている。調査方法として、受身の発話が出ると思われる

音のない1分ほどのアニメの映像⁵を7つ見せ、主人公の立場になって映像を表現してもらう方法を取った。さらに、調査から1週間後、録画したビデオを学習者に見せ、調査をしたときの解釈を確かめる刺激想起法⁶の調査を行った。

表2 調査対象者内訳

	対象者	母国語	日本語のレベル		対象者	母国語	日本語のレベル
1	A	ヒンディー語	C1	5	E	タイ語	B1
2	B	韓国語	C1	6	F	ベンガル語	B2
3	C	英語	B1	7	G	インドネシア語	A1
4	D	中国語	A1	8	H	ヒンディー語	B1

調査結果として、学習者が受身で表現した場合は12回、受身で表現しなかった場合は44回であった。下記の表3の①②③⑦は受身表現で話す学習者がいた。しかし、④⑤⑥は受身で表現している者がいなかった。⑤の「サザエさんはイギリス人の子どもに泣かれた」においては、受身で表現していないものの「子どもが泣いて、サザエさんが困った」と能動文で間違いなく話していた。

表3 話し言葉における日本語学習者の受身表現の使用数

調査対象の受身表現	表現した	表現しなかった
①カツオくんはお父さんに怒られた／叱られた。	4(1)	4(2)
②カツオくんはクラスメイトに笑われた。	3(2)	5(3)
③カツオくんはお姉さんに日記を読まれた。	2	6(2)
④サザエさんの家は泥棒に入られた。	0	8(5)
⑤サザエさんはイギリス人の子どもに泣かれた。	0	8(0)
⑥お父さんは雨に降られた。	0	8(3)
⑦アイスクリーム屋さんは氷屋さんに注意された。	3	5(0)
計	12(3)	44(15)

※ ()の中は表現をしたが間違えていた場合の誤用の数

学習者の発話内容と刺激想起法の調査のコメントをもとに分析した結果、下記の(5)の「怒られる」ように、受身表現にしたときに被害・迷惑の意味がはっきりする動詞の場合、学習者は被害を受けた者に視点を置きやすいため、受身で表現できることが考えられた。(5)の学習者は「怒られたんですかね」と語彙のように使用していることから、学習者にとってこのような動詞の受身は習得しやすいことが考えられる。しかし、(6)の「笑われる」のように動詞の意味に被害性が含まれていない場合は、混乱してしまい、被害を受けた者に視点を置けなかったことが考えられる。学習者から「笑われるで表現することはわかったが混乱した」などのコメントがあったことから、被害の受け手と被害の与え手のどちらに視点を置いて良いのか迷いがあったことが考えられる。また、(7)のように「受身を使えない」と解釈している場合は「してしまった」で表現している場合が多かったことから、被害や迷惑を表す場合は「してしまった」を使うという学習者独自のルールがあることが推測できる。

(5) 「カツオ君はお父さんに怒られた」

NS: カツオ君はどうしたんですかね。

NNS: たぶん怒られたんですかね。(韓国語母語話者 B)

(6) 「カツオ君はクラスメイトに笑われた」

NS: クラスメイトは。

NNS: クラスメイトはかつお君に笑われました。(タイ母語話者 E)

(7) 「サザエさんの家は泥棒に入られた」

NS: どうしたんでしょうね。どうしたんでしょうか。これは。

NNS: 多分、泥棒が入っちゃったと思います。(韓国語母語話者 B)

※ NS: Native speaker NNS: Nonnative speaker

4. 本稿における調査及び分析方法

本稿は3章の調査・分析結果(黒田2023)から、文法性判断テストによる調査を実施し、会話の調査では見えなかった学習者の受身表現に対する認識を分析した。3章の調査・分析では、受身で表現することを理解していても表現できないため、「してしまう」で話している場合や「笑われる」など被害迷惑の意味がはっきりしない動詞は視点の置き方を間違える傾向があった。このような動詞の場合、文法性判断テストではどのような傾向が見られるのだろうか。また、聞いてわかるが話せないレベルの学生は文法性判断テストの場合、正しい答えを選択することができるのだろうか。以上の理由から、学習者にとって受身が理解されやすい文と理解されにくい文を文法性判断テストの結果を基に分析し、その原因を検討することとした。

4.1 調査対象者

20××年7月にB大学の授業を受講していた留学生55名に文法性判断テストの調査⁷を行った。母語話者の内訳は中国母語話者31名、韓国母語話者16名、広東語母語話者5名、フランス母語話者2名、ベトナム語母語話者1名の計55名である。学習者は、日本もしくは国で1年以上日本語を学習している。調査対象者の日本語はA2からC2レベル(注3参照)である。

4.2 調査方法

本調査における文法性判断テストは55名が同時に一斉に開始する方法を取った。全22問を約20分で解答してもらい、早くできた者に対しては教室を出ても良いこととした。文法性判断テストの問題は全て筆者の作例である。本調査で使用する動詞は、前回の調査との違いを分析するため、前回で出題した「叱る」「笑う」「読む」「入る」「泣く」の受身表現を問題として使用した。今回の調査も前回の調査と同様、「叱る」のように動詞の意味に被害性があるもの、「笑う」「入る」のように動詞の意味に被害性のないものの両方を出題している。今回は「降る」の受身表現は日常であまり使用しないこと、「注意する」は「叱る」と語彙の意味が類似している性質があることから、調査対象から外した。

表4 黒田 (2023) で出題した動詞

叱る
笑う
読む
入る
泣く
降る
注意する

表5 本調査で出題した動詞

叱る	取る	見る	刺す
笑う	運ぶ	捨てる	
読む	褒める	嫌う	
入る	振る	逃げる	
泣く	頼む	壊す	
言う	休む	騙す	
来る	飛ばす	いじめる	

文法性判断テストの最初の2問は、下記の(8)(9)のように、学習者にとって理解しやすいものを出題している。本調査は前回の会話の調査に基づいて行われているため、出題している問題は話し言葉の受身表現に近い文に設定しており、下記の(8)のような複文の連用節末の「て節」の受身文とした⁸。

- (8) 授業に遅刻をしたとき、クラスメイトに (), 恥ずかしかった。
 ①笑って ②笑っていて ③笑われて ④笑ってしまって
- (9) 私は彼氏に「太ったね」と () から、毎日ジムに通っている。
 ①言って ②言っていて ③言われて ④言ってしまって

前回の調査においては学習者が受身表現の代わりに「している」「してしまう」「する」で表現している傾向があったため、本調査の選択肢は「れる/られる」「している」「してしまう」「する」の「て節」とした。選択肢は「れる/られる」の「て節」以外が解答である問題をダミーとして設定した。内容は以下の通りである。

表6 調査における選択肢とその解答

問題の解答	問題数
れて/られて	13
して	6
していて	1
してしまって	2

4.3 分析方法

学習者55名の文法性判断テストの解答を①正解及び不正解の数、②正解及び不正解であった場合の選択肢、③黒田 (2023) の会話の調査との違いから分析を行った。なお、全て受身表現を選択していた4名の学習者は調査対象から外した。

5. 調査の結果

学習者55名に文法性判断テストを行った結果は次のとおりである。

表7 受身表現の文法性判断テストの結果

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
	笑う	言う	来る	刺す	運ぶ	嫌う	振る	褒める	叱る	騙す	飛ばす
して	3	4	30	1	5	16	32	0	4	40	23
していて	0	3	5	2	9	31	9	2	1	8	10
れて/られて	49	46	9	48	5	6	5	52	48	2	17
してしまって	3	2	11	4	36	2	9	0	2	5	5
選択肢	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
	逃げる	虐める	頼む	見る	読む	壊す	入る	休む	泣く	捨てる	取る
して	5	33	6	25	2	4	3	7	6	11	8
していて	4	6	4	11	22	0	2	13	11	3	4
れて/られて	39	14	45	3	17	37	39	27	33	15	35
してしまって	7	2	0	16	14	14	11	8	5	26	8

8番無回答1名 ■ 正解の人数

5.1 受身表現の選択肢が解答の場合

一番正答が多かったのは「褒められて」であり、55名中52名が正しい答えを選んでいった。次に正答が多かったのは「笑われて」の49名であった。その他の正答が多かった問題は、「刺されて」と「叱られて」が48名、「言われて」46名、「頼まれて」45名である。一方、「休まれて」は27名、「泣かれて」は33名と正答率が低く、「休んでいて」、「泣いていて」を選んでいる学習者が多かった。また、「入られて」「壊されて」もそれぞれ39名、37名と正答率が低く、間違えて「してしまって」を選択している者が多かった。全体的に見ると、受身を選択できない場合、動詞によって「していて」「してしまって」のどちらかに解答が偏る傾向があった。

5.2 受身表現以外の選択肢が解答の場合

「騙して」が解答である場合は、正答者が55名中40名と多く、「騙されて」を選択する者が少なかった。「振って」「見て」が解答の場合は「振られて/見られて」を選択している者が少なく、「振っていて/見ている」「振ってしまって/見てしまって」を間違えて選択している者が多かった。しかし、「飛ばして」「虐めて」が解答である場合は、「飛ばされて/虐められて」を間違えて選択している者が多かった。さらに、「読んでいて」が解答である場合は、「読まれて」を選択する者が多かった。「捨ててしまって」が解答である場合においては、「捨てられて」「捨てて」を選択する者が多かった。以上のことから受身表現が解答である場合と同様、動詞によって選択肢の誤用が異なることが考えられる。

5.3 黒田（2023）の調査結果と本稿の調査結果の比較

「叱られて」においては、黒田（2023）の会話の調査と同様に、本稿の調査においても55名中48名の者が正答を選んでいった。「笑われて」においては、本稿の調査では55名中49名の者が正答を選んでおり、会話の調査とは異なる結果となった。「読んでいて」が解答の問題は正答を選ぶ者が22名と少なく、「読まれて」「読んでしまって」を選択している者が非常に多かった。「入られて」は39名が正

答を選んでしたが、「入ってしまって」を選択する者が11名おり、会話の調査と同様の結果が出た。「泣かれて」は正答を選ぶ者が33名と少なく、「泣いていて」を選択する者が11名、「泣いて」が6名、「泣いてしまって」が5名おり、会話の調査と同様に学習者が理解していない受身であることがわかった。以上の結果から、「笑われて」の結果以外は黒田(2023)の会話の調査と同じ結果となった。

6. 考察

本稿は A2 から C2 レベルの日本語学習者を対象に文法性判断テストを実施し、受身表現が理解されやすい文とそうではない文を学習者の解答から検証し、その原因を検討した。内容は以下の通りである。

6.1 受身表現が正しく選択できた理由

本稿の調査でほとんどの学習者が正しく選択できたのは「笑われて」(55名中49名)、「褒められて」(55名中52名)である。それでは、なぜ学習者は「笑われて」「褒められて」を正しく選択できたのであろうか。この点については次のことが考えられる。下記の問題(1)の「笑われて」は、前回の会話の調査においては主語を被害・迷惑を与えた動作主にする場合があったが、文法性判断テストの場合、動作主が記載されているので判断がしやすかった可能性がある。しかし、「笑って」と「笑ってしまって」を選択するものがそれぞれ3名いたのは、いずれも A2及び B1レベルの学習者であり、「見てわかる」レベルに達していなかったことが考えられる。問題(8)の「褒められて」においては複文の後件で「恥ずかしかった」という被害・迷惑を受けた者の心情を述べていること、他動詞の受身表現であるため、相手から「褒める」行為を受けたことがわかりやすかったことが、正しく選択できた理由であると考えられる。それでは、複文の後件に迷惑を表す表現が入っていない問題(14)の「頼まれて」が解答の場合は、なぜ「頼んでしまって」の選択がなかったのであろうか。(14)の場合、学習者は「頼んで」「頼んでいて」を間違えて選択する者がいたことから、後件の「スーパーに卵を買いに行った」を見て、被害性のない中立的な受身文であると判断し⁹、選択肢として「してしまって」を排除したのではないだろうか。このことから、複文の受身の場合、後件の部分に選択するヒントがあるため、学習者は後件の表現と動詞の意味を組み合わせることで判断していることが考えられる。

(1) 授業に遅刻をしたとき、クラスメイトに()、恥ずかしかった。

①笑って ②笑っていて ③笑われて ④笑ってしまって

(8) みんなの前で先生に()、少し恥ずかしかった。

①褒めて ②褒めていて ③褒められて ④褒めてしまって

(14) 母親に()、スーパーに卵を買いに行った。

①頼んで ②頼んでいて ③頼まれて ④頼んでしまって

6.2 受身表現が正しく選択できなかった理由

本稿の調査で正答率が最も低かったのは「休まれて」(55名中27名)であり、続いて「泣かれて」(55名中33名)という結果になった。最も正答率が低かった「休まれて」においてはC2レベルのよくできる学習者が唯一この問題だけを間違えていたり、解答用紙にスターマークをつけていたりしていた。次に正答率が低かった「泣かれて」においても「休まれて」と結果が類似しており、誤用のパターンが母語によって偏りがあったため、「休まれて」と「泣かれて」の誤用のパターンを比較し検討した。下記の表8は「休む」と「泣く」の母語別の解答の内訳である。この内訳を見てみると、中国語母語話者10名が「休まれて」を選択すべきであるのに、「休んでいて」を選択していた。また、「泣かれる」が正答の問題に対しても9名が「泣いていて」を選択していた。

表8 「休む」と「泣く」の解答の内訳(母語別)

母語話者	して		していて		してしまって		れて/られて	
	休む	泣く	休む	泣く	休む	泣く	休む	泣く
韓国語母語話者(16名)	1	3	2	1	3	2	10	10
中国語母語話者(31名)	4	3	10	9	4	2	13	17
フランス語母語話者(2名)	1	0	0	1	0	0	1	1
広東語母語話者(5名)	1	0	1	1	0	0	3	4
ベトナム語母語話者(1名)	0	0	0	0	1	0	0	1
計	7	6	13	12	8	4	27	33

それではなぜ、中国語母語話者は「休まれて」「泣かれて」を選ぶべき問題に対して、「休んでいて」「泣いていて」を選んだのであろうか。この件については次のことが考えられる。自動詞「休む」の受身表現「休まれる」は間接受身表現であるため、学習者は問題(19)の「アルバイト(の学生)が休んだこと」と「店長が困ったこと」の関係性につかめず、受身を選択できなかったことが考えられる。「休んでいて」を選択した理由として、「店長はアルバイト(の学生)が休んでいるから、困っていた」と言うように解釈し、アルバイトの学生が休んだという状態を表すために「休んでいて」を選択したことが考えられる。同様に問題(20)の「泣かれて」においても、子どもが泣いている状態と母親の心情を関係づけるために、「泣いていて」が選択されたのではないかと思われる。

- (19) 店長は急にアルバイトに()、困っていた。
 ①休んで ②休んでいて ③休まれて ④休んでしまって
- (20) 若いお母さんが電車の中で子どもに()、困っていた。
 ①泣いて ②泣いていて ③泣かれて ④泣いてしまって

さらに「壊されて」と「入られて」が解答の問題において、中国語母語話者が「壊してしまって」と解答した者が10名、「入ってしまって」と解答した者が7名いたので、検討をした。

表9 「壊す」と「入る」の解答の内訳（母語別）

母語話者	して		していて		してしまって		れて/られて	
	壊す	入る	壊す	入る	壊す	入る	壊す	入る
韓国語母語話者 (16名)	1	1	0	0	2	2	13	13
中国語母語話者 (31名)	1	2	0	1	10	7	20	21
フランス語母語話者 (2名)	0	0	0	0	0	1	2	1
広東語母語話者 (5名)	2	0	0	1	2	1	1	3
ベトナム語母語話者 (1名)	0	0	0	0	0	0	1	1
計	4	3	0	2	14	11	37	39

「壊されて」と「入られて」はどちらも間接受身の表現であるが、学習者が誤って選択した要因は異なることが考えられる。まず、問題 (17) の「壊されて」は他動詞であり、被害の意味を含む動詞であること、複文の後件に「課題ができなくなった」という表現あることから、過去のことであることを理解しやすい。しかし、(17) は主語が省略されていることと、目的語の「パソコン」が含まれる間接受身であることから、「壊してしまって」と「壊されて」が曖昧になったことが考えられる。一方、問題 (18) の「入られて」は主語があっても学習者が理解できなかったのは、自動詞であるので、「泥棒が入ったこと」と「大切なものがなくなったこと」の関係がわからなかったことが推測される。問題 (17) の「壊してしまう」同様、「大切なものが全てなくなった」ことから過去であることはわかるが、「泥棒に入られる」というイディオムを知らなければ判断できない。この理由から「入ってしまう」を選択したのではないだろうか。

今回の調査は韓国語母語話者の学習者が受身表現を選択すべきところを「してしまって」を選択するのではないかと推測していたが、韓国語母語話者全体としてはあまり間違いがなかった¹⁰。

(17) 弟にパソコンを (), 課題ができなくなった。

①壊して ②壊していて ③壊されて ④壊してしまって

(18) 私が留守のときに、泥棒に (), 大切なものが全てなくなった。

①入って ②入っていて ③入られて ④入ってしまって

6.3 誤って受身表現を選択した理由

本調査は解答が受身表現ではない場合も9問設定しており、「読んでいて」を選択すべきところを「読まれて」と選択する者が17名いたのでここで検討をする。学習者が「読んでいて」と選択すべきところを「読まれて」と選択したことには、次のことが言えるのではないだろうか。「読まれて」を選択していた学習者は17名中13名が中国語母語話者であった。学習者は問題 (16) の文を直接受身の「私の日記がお母さんに読まれて、びっくりした」という無生物主語の直接受身と間違えて認識したのではないかと考える。動作主の助詞「が」が書かれているが、「私の日記」を見て「読まれて」と解答したことが推測される。この根拠として、6.2の「受身表現が正しく選択できなかった理由」においても言及した通り、解答を選ばなかった学習者は複文の後件の表現と選択肢の動詞に被害性の意味が含意されているのか否かを選択基準としている可能性があるが、動作主の助詞の「に」を受身表

現の選択基準としていないことが考えられるからである。学習者は「私の日記」「お母さん」「びっくりした」この3つの語彙から解答を選択したのではないだろうか。

- (16) 家に帰ったら、私の日記をお母さんが (), びっくりした。
 ①読んで ②読んでいて ③読まれて ④読んでしまって

本稿において、日本語学習者を対象に文法性判断テストを実施し、受身表現が理解されやすい文とそうではない文を学習者の解答から検証したところ、受身表現が理解されやすい場合は他動詞の「褒める」「頼む」「笑う」の受身表現であり、複文の後件の「恥ずかしかった」など被害・迷惑を受けた者の心情や動作・行為が動詞の意味と結びつきやすい場合が理解されやすいことがわかった。また、本稿の分析は黒田(2023)の分析とは異なり、動詞の意味に被害・迷惑の意味が含まれていない受身においても、複文の後件の内容と選択肢の動詞の意味から正しく選択できることが考えられた。

一方、受身表現が理解されにくい文は、自動詞の「休む」「泣く」「入る」の間接受身表現、他動詞の「壊す」「読む」の間接受身表現であった。学習者は前件の動作主の行為と後件の被害・迷惑を受けた者の心情や状態の関連性を理解することができず、「してしまって」「していて」を選択する傾向があった。黒田(2023)の調査では、受身表現を「してしまう」にして表現する傾向が見られたが、本稿の調査では後件の表現が「課題ができなかった」など過去に被害・迷惑があったことを表している場合は「してしまって」を選択すること、後件の表現が「困っていた」など被害・迷惑を受けた人の過去の状態を表す場合「ていて」を受身表現の代わりに選択することが推測された。これらのことから、解答を選べなかった学習者は複文の後件の表現と選択肢の動詞に被害性の意味が含まれているのかどうかを選択基準としている可能性があるが、動作主の助詞の「に」を受身表現の選択の基準としていないことが考えられた。なお、本稿は受身表現を正しく選択できなかった動詞について母語別に分析を行い、中国語母語話者の誤用が多いという結果になったが、母語の影響であるのか日本語のレベルの影響であるのかがはっきりしなかった。

7. まとめと今後の課題

本稿はA2からC2レベルの日本語学習者を対象に文法性判断テストを実施し、受身表現が理解されやすい場合とそうではない場合を学習者の解答を基に検討した。その結果は以下の通りである。

- ① 受身表現が理解されやすい場合は、複文の前件が他動詞の直接受身表現であり、後件の内容と選択肢の動詞の意味の結びつきがわかりやすい場合である。
- ② 受身表現が理解されにくい場合は、自動詞と他動詞の間接受身表現であり、前件の動作主の行為と後件の被害・迷惑を受けた者の心情や状態の関係を理解することができず、「してしまって」「していて」を選択する。
- ③ 学習者は後件で被害・迷惑があったことを表している場合は「してしまって」、被害・迷惑を受けた人の過去の状態を表す場合は「していて」を受身表現の代わりに選択する場合がある。
- ④ 学習者は受身表現の動作主の助詞「に」を、受身表現を選ぶ際の基準としていない。

なお、本稿は受身表現を正しく選択できなかった動詞について母語別に分析を行い、中国語母語話者の誤用が多いという結果になったが、母語の影響であるのか日本語のレベルの影響であるのかが、はっきりしなかったため、引き続き検討したい。さらに、今回は前回の会話の調査の結果と比較を行うことを目的としていたため、複文の受身表現とし、主語がない受身表現の問題を設定したが、主語がないために学習者が誤って選択した問題があったため、今後は日本語母語話者への調査を行い、文法性判断テストの出題形式についてさらに検討を重ねたい。

【注釈】

- 「回避」とは学習しても使い方がよくわからなかったり、自信がなかったりするために、その表現や語句を使わないで避ける状態である。「非用」とも呼ぶ(迫田2002)。
- 本稿は日本認知言語学会の2023年度第24回全国大会のポスターセッションで発表した結果に基づき、さらに調査を行ない論文としてまとめたものである。
- 学習者のレベル(中級から上級レベル)は文化庁(2021:22)の「日本語教育の参照枠の全体的な尺度」でいうと、A2からC2のレベルである。以後、学習者のレベルは文化庁(2021:22)の以下のレベルに従う。

全体的な尺度(抜粋)		
日本語能力の熟達度について6レベルで示したもの		
熟達した言語使用者	C2 2	聞いたり、読んだりしたほぼ全てのものを容易に理解することができる。自然に、流ちょうかつ正確に自己表現ができ、非常に複雑な状況でも細かい意味の違い、区別を表現できる。
	C1 1	いろいろな種類の高度な内容のかなり長いテキストを理解することができ、含意を把握できる。言葉を探しているという印象を与えずに、流ちょうに、また自然に自己表現ができる。社会的、学問的、職業上の目的に応じた、柔軟な、しかも効果的な言葉遣いができる。
自立した言語使用者	B2 2	自分の専門分野の技術的な議論も含めて、具体的な話題でも抽象的な話題でも複雑なテキストの主要な内容を理解できる。お互いに緊張しないで熟達した日本語話者とやり取りができるくらい流ちょうかつ自然である。
	B1 1	仕事、学校、娯楽でふだん出会うような身近な話題について、共通語による話し方であれば、主要点を理解できる。身近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結び付けられた、脈絡のあるテキストを作ることができる。
基礎段階の言語使用者	A2 2	ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、近所、仕事など、直接的関係がある領域に関する、よく使われる文や表現が理解できる。簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に応じることができる。
	A1 1	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助け船を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。

各レベルについての説明は、CEFR日本語版(追補版)の訳文を基にし、CEFR補遺版を参考に一部修正を加えた。

- 本稿の迷惑受身の分類は、田中・館岡(1992)の「迷惑・被害の受身は間接受身と一部の直接受身から作られる」という分類方法に従うものとし、一般的に日本語学で言及されている「直接受身は中立受身、間接受身は被害受身」という分類方法(三上1972)とは異なる。
- 以下はアニメの映像の場面である。(8)と(9)は迷惑受身に関わりのないダミー映像である)
 - カツオくんはお父さんに叱られた/怒られた。
 - カツオくんはクラスメイトに笑われた。

- (3) カツオくんはお姉さんに日記を読まれた。
- (4) サザエさんの家は泥棒に入られた。
- (5) サザエさんは子どもに泣かれて、困った。
- (6) お父さんは雨に降られて、濡れてしまった。
- (7) アイスcream屋さんは氷屋の店主に注意された。
- (8) カツオくんは誰にもチョコレートをもらえなくて、がっかりした。
- (9) カツオくんはかおりちゃんにチョコレートもらった。

6 刺激想起法 (stimulated recall) の手順は以下のとおりである。

- (1) 学習者が受身で話しているもしくは受身で話せなかった部分のビデオと学習者の発話を文字化した内容を見せる。
- (2) 話したときの解釈や考えていたことについて聞く。
- (3) 学習者のコメントに合わせて、受身で話した方が良かった理由を説明する。

7 文法性判断テストの内容は以下の通りである。

- (1) 授業に遅刻をしたとき、クラスメイトに (), 恥ずかしかった。
①笑って ②笑っていて ③笑われて ④笑ってしまって
- (2) 私は彼氏に「太ったね」と () から、毎日ジムに通っている。
①言って ②言っていて ③言われて ④言ってしまって
- (3) 私の部屋に友達がやって (), 騒ぐだけ騒いで帰って行った。
①来て ②来ていて ③来られて ④来てしまって
- (4) 昨日、たくさん蚊に (), かゆくて寝られなかった。
①刺して ②刺していて ③刺されて ④刺してしまって
- (5) まだ食べたかったのに、お店の人が料理を (), 残念だった。
①運んで ②運んでいて ③運ばれて ④運んでしまって
- (6) 田中さんは鈴木さんを (), ずっと口を聞きいていない。
①嫌って ②嫌っていて ③嫌われて ④嫌ってしまって
- (7) ゆいさんがたけしさんを () から、もう2か月たった。
①振って ②振っていて ③振られて ④振ってしまって
- (8) みんなの前で先生に (), 少し恥ずかしかった。
①褒めて ②褒めていて ③褒められて ④褒めてしまって
- (9) 両親に (), ひどく落ち込んだ。
①しかって ②しかっていて ③しかられて ④しかってしまって
- (10) けんさんは彼女を (), 他の女の子と旅行に行った。
①騙して ②騙っていて ③騙られて ④騙してしまって
- (11) 田中部長はいつも文句ばかり言う佐藤さんを北海道に (), すっきりしていた。
①飛ばして ②飛ばしていて ③飛ばされて ④飛ばしてしまって
- (12) 加藤さんは奥さんに (), 困っている。
①逃げて ②逃げていて ③逃げられて ④逃げてしまって

- (13) 昨日、クラスの男の子がみほさんを()、泣かしていた。
①いじめて ②いじめていて ③いじめられて ④いじめてしまって
- (14) 母親に()、スーパーに卵を買いに行った。
①頼んで ②頼んでいて ③頼まれて ④頼んでしまって
- (15) 姉が私の0点のテストを()、すぐに両親に知らせてしまった。
①見て ②見ている ③見られて ④見てしまって
- (16) 家に帰ったら、私の日記をお母さんが()、びっくりした。
①読んで ②読んでいて ③読まれて ④読んでしまって
- (17) 弟にパソコンを()、課題ができなくなった。
①壊して ②壊していて ③壊されて ④壊してしまって
- (18) 私が留守のときに、泥棒に()、大切なものが全てなくなった。
①入って ②入っていて ③入られて ④入ってしまって
- (19) 店長は急にアルバイトに()、困っていた。
①休んで ②休んでいて ③休まれて ④休んでしまって
- (20) 若いお母さんが電車の中で子どもに()、困っていた。
①泣いて ②泣いていて ③泣かれて ④泣いてしまって
- (21) 母が大切にしていたマンガを()、ひどく落ち込んだ。
①捨てて ②捨てていて ③捨てられて ④捨ててしまって
- (22) 私は1万円もした傘を()から、100円の傘を使っている。
①取って ②取っていて ③取られて ④取ってしまって

⁸ 前田(2022)は話し言葉における受身表現の出現位置別と出現率を調査した結果、複文の連用節末の「て節」の受身表現が多いことを報告している。本稿は、前田(2022)を参考とし、文法性判断テストの文は前件に「て節」を含む文にした。

⁹ この「頼んで」「頼んでいて」を間違えて選択した者の10人中9名が中国語母語話者であったことから、母語の影響があるのではないかと思われる。また、主語が省略されている文に対する学習者の解釈も明らかではないので、これらの内容は今後の課題とする。

¹⁰ 許(1999)は、韓国語は自動詞による受身文が成り立たないため、「~해 버리다/haepolida/(~てしまう)」によって表現することを報告している。数名の韓国語母語話者において、繰り返し「してしまう」を間違えていた者いたので、以下の母語の影響も考えられるが、この内容は今後の課題とする。

아기가 밤새도록 울어 버렸다 赤ちゃんが一晩中泣いてしまった。(許 1999 : 73)

謝辞

本稿執筆にあたり長崎外国語大学の学生の方々と先生方に大変お世話になりました。調査に快く協力してくださった学生の方々と有益なアドバイスをくださった先生方に心より御礼を申し上げます。

【参考文献】

- 市川保子 (2014) 「外国人学習者は日本語文法の何が知りたいか：日本語事情クラスを通して」『日本語と日本語教育』 No.42, pp.83-112 慶応義塾大学日本語・日本文化教育センター.
- 大関浩美 (2022) 「第4章 日本語学習者のコーパスからみた受動文」庵功雄編著・志波彩子・村上佳恵・大関浩美・定延利之・前田直子・菊池康人・増田真理子著『日本語受身文の新しい捉え方』くろしお出版 東京.
- 菊池康人・増田真理子(2022)「第7章 日本語教育の受身の指導法改善と、被害の有無の識別法—〈さし向け〉による受身の捉え直しと、その日本語学への提案—」庵功雄編著・志波彩子・村上佳恵・大関浩美・定延利之・前田直子・菊池康人・増田真理子著『日本語受身文の新しい捉え方』くろしお出版 東京.
- 黒田弘美 (2023) 「話し言葉における日本語学習者の受身の使用について—学習者はどのように受身を表現しているのか—」日本認知言語学会第24回全国大会ポスター発表 桜美林大学 東京.
- 小林典子 (2001) 「第4章 誤用の隠れた原因 誤用の原因はいろいろなところに潜んでいる」野田尚史・迫田久美子・渋谷勝己・小林典子著『日本語学習者の文法習得』大修館書店 東京.
- 迫田久美子 (2002) 『日本語教育に生かす第二言語習得』アルク 東京.
- 柴谷方良 (1997) 「「迷惑受身」の意味論」『日本語文法 体系と方法』川端善明・仁田義雄 (編) ひつじ書房 東京.
- 田中真理・館岡洋子 (1992) 「構文と意味の面からみた「受身」と「～てもらう」の使い分け—「迷惑・被害の受身」の考察を通して」『ICU 日本語教育研究センター紀要』 2, pp.235-256 国際基督教大学日本語教育研究センター.
- 許明子 (1999) 「日本語と韓国語の受身文の分類に関する試考」『比較社会文化研究』 5, pp.61-75 九州大学大学院比較社会文化研究科.
- 前田直子(2022)「第6章 「受動文」から「受身文」へ—受身の捉え方と受身の指導法—」庵功雄編著・志波彩子・村上佳恵・大関浩美・定延利之・前田直子・菊池康人・増田真理子著『日本語受身文の新しい捉え方』くろしお出版 東京.
- 三上章 (1972) 『現代語法序説—シンタクスの試み』復刊 くろしお出版 東京.
- 文化審議会国語分科会 (2021) 「日本語教育の参照枠」(報告)https://www.nihongo-ews.bunka.go.jp/infomation/framework_of_reference, 最終閲覧2023年9月15日.

